

実体経済の動向

◇生産、出荷は前月に続き増加、在庫は6ヵ月ぶりに減少

(生産——微増)

10月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比^(注))、速報)は+0.4%と前月大幅増加(+3.9%)のあと、微増となった(前年同月比+4.3%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

10月の動きを財別にみると、一般資本財、資本財輸送機械、耐久消費財は前月大幅増加の反動もあって小幅減少を示したが、生産財および非耐久消費財は2ヵ月連続して増加した。この間、建設財は5月以降5ヵ月連続して減少のあと横ばいとなった。すなわち一般資本財は、金属加工機械、通信機械等が増加を続けたものの、化学機械、ポンプ、ベルトコンベヤ等が前月大幅増加の反動もあってかなりの減少となったため全体では微減となり、資本財輸送機械も乗用車(普通、小型)、船舶を中心に前月大幅増加の反動から小幅減少を示

した。また耐久消費財は暖ちゅう房熱機器(小型石油ストーブ等)、ラジオ・テレビ・音響装置等が引続き増加したものの、小型自動車、二輪自動車、光学機械・同部品等が小幅反動減となったほか、民生用電気機械(セパレート型エアコン等)も前月に続き減少したため、全体では前月大幅増加のあと減少を示した。

一方、生産財では鉄鋼素製品(粗鋼等)、鋼板、亜鉛・アルミ地金、石油製品(揮発油、重油)等が減少したものの、プラスチック(ポリエチレン、塩ビ樹脂等)、板紙(段ボール原紙等)等が流通・ユーザー段階の在庫調整進捗などを映じて前月に続き増加し、需要好調の通信・電子部品等も増加を続けたため、全体では前月に続き増加し、また非耐久消費財もニットおよび繊維2次製品、家庭用薄葉紙などを中心にかなりの増加を示した。

この間建設財は、建設用金属製品(鉄骨、アルミサッシ等)が減少を続け、セメントも前月大幅増加のあとわずかながら減少したものの、土石製品がコンクリート管や護岸用コンクリートブロック等公共投資関連財を中心に前月に続き小幅増加し、形鋼等もかなりの増加となったため、全体では前月まで5ヵ月連続減少のあと横ばいとなった。

(出荷——小幅増加)

10月の出荷(速報)は+1.5%と前月大幅増加(+4.0%)のあと引続き増加した(前年同月比+2.2%)。

10月の動きを財別にみると、一般資本財が前月大幅増加のあと減少を示したものの、資本財輸送機械、耐久消費財、非耐久消費財および生産財が前月に続き増加し、また建設財も2月以来8ヵ月ぶりにわずかながら増加した。

すなわち、一般資本財は電力・通信ケーブル、特殊産業機械(印刷機械等)、事務用機械、金属加工機械等が前月減少のあと増加を示したものの、ポンプ、化学機械等が前月著増の反動などから減少したため、全体では前月大幅増加のあと減少を

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

		54年	55年				55年		
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月		8月	9月	10月
鉱工業	指数	137.7	143.4	143.6	140.3		136.4	141.7	142.3
	前期(月)比	2.6	4.1	0.1	-2.3		-4.5	3.9	0.4
	前年同期(月)比	9.1	11.4	9.1	4.7		1.3	6.1	4.3
投資財		3.0	3.5	1.3	-1.3		-6.5	5.9	-1.5
資本財		3.5	4.1	2.6	1.5		-7.3	7.6	-1.0
同(輸送機械を除く)		3.2	4.3	2.7	0.4		-5.2	5.8	-0.1
輸送機械		6.4	4.4	2.3	2.5		-15.2	13.2	-1.1
建設財		2.1	1.7	-1.8	-8.4		-4.3	-0.9	0.0
消費財		3.1	5.2	-0.6	0.6		-2.8	6.1	0.3
耐久消費財		4.3	7.8	2.3	3.5		-0.2	7.3	-0.7
非耐久消費財		2.0	2.8	-2.9	-1.6		-3.9	3.2	2.1
生産財		2.2	3.6	-0.1	-5.0		-4.3	1.3	1.3

(注) 通産省調べ。55年10月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

示した。

一方資本財輸送機械は、船舶、トラックが3か月ぶりに増加し、小型自動車も前月に続き増加したことから全体では2か月連続の増加となり、耐久消費財も暖ちゅう房熱機器や民生用電気機械が引続き増加し、ラジオ・テレビ・音響装置(ラジオ、テレビ等)も輸出好調等を背景にかなりの増加を示したため、全体では、2か月連続の増加となった。非耐久消費財も天然色フィルムが3か月連続の増加となったほか、前2か月著減を示した合成洗剤が大幅な増加に転じたことなどから前月に続き増加した。

また生産財は、標準モーターが前月微増のあと大幅に減少し、印刷用紙、鋼板等が前月に続き減少したものの、プラスチック(ポリエチレン、塩ビ樹脂等)、板紙(段ボール原紙等)等が流通・ユーザー段階での在庫調整進捗を映じて前月に続き増加したほか、通信・電子部品(トランジスタ等)も需要好調から引続きかなりの増加を示したため、全体でも2か月連続の増加となった。建設財は建設用金属製品(鉄骨、アルミサッシ等)が前月に続きかなりの減少となったものの、公共投資関連の土石製品(コンクリート管、道路用コンクリ

ート製品等)や電力投資関連の銅電線等が前月に続き増加したほか、板ガラスも3か月ぶりに増加したことなどから8か月ぶりにわずかながら増加した。

(在庫——6か月ぶりに減少)

10月の生産者製品在庫(速報)は、-0.4%と6か月ぶりに減少した。この間、在庫率指数(50年=100)は、87.6と前月に続きかなりの低下を示した(前月91.2)。

これを財別にみると、一般資本財、資本財輸送機械が増加を続け、建設財も小幅の増加となった一方、生産財、耐久消費財、非耐久消費財は減少した。すなわち、一般資本財は、特殊産業機械、農業用機械、金属加工機械、事務用機械等を中心に引続き増加を示し、資本財輸送機械もトラック、バス等を中心にかなりの増加となった。また建設財は、建設用金属製品(アルミドア、スチールシャッター等)、土石製品(コンクリート管等)が微減となったほか、セメント、板ガラス等も引続きかなりの減少となったものの、H型鋼、小形棒鋼、亜鉛めっき鋼板等が増加したため全体では微増となった。

一方生産財は、アルミ地金、印刷用紙、化学繊

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

		54年	55年				55年		
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月	
鉱	指 数	134.8	139.2	138.5	133.8	129.8	135.0	137.0	
工	前期(月)比	3.1	3.3	0.5	3.4	-4.9	4.0	1.5	
業	前年同期(月)比	8.7	9.6	6.8	2.4	-1.3	4.2	2.2	
投 資 財		3.0	2.0	0.4	0.3	-6.0	4.4	-1.5	
資 本 財		4.4	1.5	2.8	2.7	-7.6	6.2	-1.1	
同 (輸送機械を除く)		4.3	0.8	2.0	2.6	-5.5	7.6	-2.1	
輸 送 機 械		6.1	0.6	4.8	3.8	-10.5	2.4	1.5	
建 設 財		1.0	2.3	4.4	6.4	-2.3	-1.0	0.2	
消 費 財		2.8	6.1	0.8	1.5	-3.2	4.5	3.1	
耐久消費財		4.5	8.8	4.2	2.6	-1.4	4.0	5.3	
非耐久消費財		2.2	3.6	4.6	1.5	-3.5	3.2	2.2	
生 産 財		2.7	2.7	1.2	6.2	-4.8	2.8	2.3	

(注) 通産省調べ。55年10月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(一)率・%)

		54 年	55 年				55年		
		(期末)	(期末)						
		12月	3月	6月	9月	8月	9月	10月	
鉱	指 数	105.9	107.3	110.3	114.2	112.6	114.2	113.7	
工	前期(月)末比	2.6	1.3	2.8	3.5	0.1	1.4	- 0.4	
業	前年同期(月)末比	3.8	5.0	9.4	10.7	11.1	10.7	8.6	
投 資 財		3.7	1.9	8.2	4.4	- 0.5	1.7	2.6	
資 本 財		2.6	4.2	6.3	6.4	- 0.6	3.6	3.6	
同	(輸送機械を除く)	3.3	5.9	7.5	7.0	3.4	0.9	2.9	
輸 送 機 械		1.0	1.6	4.5	5.3	- 7.1	8.9	5.4	
建 設 財		3.7	0.9	10.2	1.6	0.0	- 0.8	0.8	
消 費 財		8.4	2.6	- 3.4	2.4	- 2.1	3.6	- 1.7	
耐久消費財		8.0	4.4	- 2.4	14.2	1.3	9.6	- 2.3	
非耐久消費財		6.8	0.8	- 4.1	- 6.9	- 5.2	- 2.0	- 1.7	
生 産 財		- 1.9	- 0.5	4.7	4.8	2.6	0.1	- 1.0	

(注) 通産省調べ。55年10月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

維等が増加を続けたものの、特殊鋼(熱間圧延鋼材、熱間鋼管)が輸出増から減少したほか、プラスチック(ポリエチレン、塩ビ樹脂等)、板紙(段ボール原紙等)等も流通・ユーザー段階の在庫調整進捗を映じた出荷増を背景に引続き減少したため、全体では8か月ぶりに減少を示した。

また耐久消費財は、二輪自動車、時計等が増加を続けたものの、民生用電気機械(電気冷蔵庫等)、暖ちゅう房熱機器(小型石油ストーブ等)の減少を主因に4か月ぶりに減少し、非耐久消費財も天然色フィルム、家庭用合成洗剤、揮発油、灯油等を中心に3か月連続の減少を示した。

(民間設備投資——10月の機械受注、建設工事受注は増加、一般資本財出荷は減少)

10月の機械受注(船舶を除く民需)は+74.0%と前2か月減少のあと、著増を示した。業種別にみると、非製造業からの受注は、運輸、建設等が減少したものの、電力の著伸(前月比4.6倍)から全体では94.4%と3か月ぶりに大幅増加を示した(前年同月比+22.7%)。また製造業からの受注も石油が2か月連続して大幅減少をみたものの、鉄鋼、自動車、機械、化学等が軒並み増加したため+38.3%と3か月ぶりに大幅増となった(前年同月比+17.7%)。

需要先別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

		55年			55年		
		1～3月	4～6月	7～9月	8月	9月	10月
機械受注	民需	5,094 (- 4.3)	6,331 (24.3)	5,567 (- 12.1)	5,367 (- 14.2)	5,081 (- 5.3)	8,723 (71.7)
	同(船舶を除く)	4,853 (- 4.6)	5,652 (16.5)	5,282 (- 6.5)	5,122 (- 12.4)	4,879 (- 4.7)	8,489 (74.0)
	製造業	2,363 (7.3)	2,634 (11.5)	2,196 (- 16.6)	2,198 (- 9.0)	1,974 (- 10.2)	2,730 (38.3)
	非製造業	2,790 (- 10.3)	3,667 (31.4)	3,351 (- 8.6)	3,131 (- 17.3)	3,135 (0.1)	6,159 (96.4)
	同(船舶を除く)	2,550 (- 10.7)	3,007 (17.9)	3,105 (3.3)	2,987 (- 11.3)	2,963 (- 0.8)	5,760 (94.4)
建設工事受注(民間)		4,292 (21.5)	4,071 (- 5.1)	3,866 (- 5.0)	3,798 (- 8.7)	3,716 (- 2.2)	4,039 (8.7)

(注) 機械受注は 経済企画庁調べ。建設工事受注は 建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(率)(%)。

なお、10月の建設工事受注額(民間分、速報)は、+8.7%と前2か月減少のあとかなり持直した(前年同月比+22.1%)。

一方、10月の一般資本財出荷は-2.1%と前月大幅増加(+7.6%)のあと減少を示した。これは、ポンプ、化学機械、ベルトコンベヤ等が前月著増の反動などから減少したことによるところが大きく、電力・電電公社関連の電力・通信ケーブルや合理化投資関連の事務用機械、金属加工機械等は増加した。

◇小売商況は若干ながら持直し

10月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比)は+8.9%と前月(+8.0%)に比べ小幅ながら伸びを高めた。品目別にみると、家具、家庭用品が引続き伸び悩んだものの、食料品が高い伸びを続けたほか、衣料品も下旬における冬物衣料の売行き伸長から幾分持直した。なお、11月入り後も衣料品を中心にまずまずの売行きを示している模様である。

11月の主要耐久消費財の販売状況をみると、乗用車新車登録台数(軽を除く、前年比)は-16.6%と主力小型車を中心に引続き大幅な減少となった。

一方、家電製品の販売はビデオテープレコーダー、カラーテレビが引続き順調なほか、暖房器具もまずまずの売行きを示している。

◇商況の基調——軟調

11月の商品市況は、石油製品(灯油、C重油)が続伸し、製材、砂糖が反発したものの、鉄鋼をはじめ合繊、紙(上質紙)、塩ビ、合板等が続落ないし反落するなど、大勢としては軟弱地合いを続けた。

これは、①秋需が盛上りを欠いたまま推移(条鋼類、合板、上質紙等)したほか、自動車減産の影響が広がりつつある(薄板、鉛、塩ビ・シート)など、末端実需が低調を続けたこと、②国産ナフサ、輸入チップ等の原料コスト低下に伴う製品先

安値が依然尾を引いていること(石化、合繊、上質紙)、③一部品目では安値輸入玉の流入が高水準を続けたこと(綿糸、アルミ、厚板)、などが主たる背景。このほか、④棒鋼、山形鋼、上質紙等では資金繰り難などから減産の足並みが乱れ、安値換金売りの動きがみられたことも響いている。

(卸売物価——0.1%の微騰)

11月の卸売物価は前月比+0.1%の微騰となった。品目別にみると、国内品は鉄鋼、繊維等市況商品が続落したほか、完成品へのコスト波及もほぼ一巡したことから-0.1%と前月に続き下落した。一方、輸出品は為替要因のほか、自動車等の値上

げから、また輸入品も為替要因に加えとうもろこし、こうりゃん等飼料穀物や羊毛、原木の海外高もあって、それぞれ+0.7%、+0.9%の上昇となった。用途別にみると、中間品が市況商品を中心に3ヵ月連続の下落となったほか、完成品も一部食料品(鶏卵、豚肉等)やプロパンガスなどの非耐久消費財が小幅上昇となったものの、資本財、耐久消費財が保合いとなったため、+0.2%と54年3月以来の低い伸びにとどまった。この間素原材料は為替要因や輸入穀物等の値上りを映じ+1.0%の上昇となった。

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(前月<期>比騰落率・%)

	ウエイト	55年		55 年				
		4～6月 平	7～9月 平	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
総 平 均	1,000.0	4.8	0.7	0.4	0.7	- 0.3	- 0.7	0.1
食 料 品	140.9	3.5	1.5	0.5	0.6	0.5	0.4	0.6
非食料農林産物	18.9	- 2.0	- 6.8	- 1.5	1.3	- 3.6	- 3.8	1.3
繊 維 製 品	62.9	2.6	- 0.4	- 0.4	0.5	0.3	- 1.2	- 0.8
製 材・木 製 品	33.6	1.4	- 6.2	- 1.9	- 2.3	- 2.8	- 3.1	0.5
パルプ・紙・同製品	28.9	11.1	1.0	0.1	- 0.6	- 0.7	- 0.6	- 0.6
金 属 素 材	12.6	- 10.3	- 2.4	3.6	0.3	- 2.2	- 4.3	- 1.2
鉄 鋼	80.7	5.7	- 1.2	- 0.2	0.7	- 0.6	- 0.6	- 0.3
非 鉄 金 属	26.1	- 11.1	- 1.1	1.6	0.1	- 0.1	- 1.7	- 1.6
金 属 製 品	37.0	5.0	2.3	0.8	0	1.3	- 0.2	- 0.2
電 気 機 器	73.3	1.1	0.6	0.5	0.2	- 0.3	0.1	0.1
輸 送 用 機 器	74.0	0	1.2	1.3	0.6	- 0.3	- 0.1	0.3
一 般・精 密 機 器	95.7	1.6	1.3	0.7	0.5	0.2	0.1	0.2
化 学 製 品	91.1	6.0	0.6	0.4	- 0.1	- 0.1	- 0.7	- 0.6
石油・石炭・同製品	102.2	10.1	2.6	- 0.3	4.0	- 0.6	- 1.2	0.5
窯 業 製 品	30.5	7.5	1.7	1.0	0.5	0.1	0.5	0.7
電 力・ガ ス	25.5	43.5	3.5	4.8	- 0.8	- 0.6	- 4.6	1.1
雑 品 目	66.1	2.8	1.6	0.1	- 0.1	0.1	0.2	0.3
工 業 製 品	816.4	4.3	0.8	0.2	0.6	- 0.1	- 0.5	- 0.1
大 企 業 性 製 品	579.9	4.9	1.4	0.2	1.0	0	- 0.4	- 0.1
中 小 企 業 性 製 品	214.6	3.8	- 0.4	- 0.1	- 0.3	- 0.3	- 0.7	- 0.1
非 工 業 製 品	158.1	1.5	- 0.5	0.5	1.4	- 1.0	- 1.1	0.9
国 内 品	801.9	5.9	1.4	0.3	0.5	0.1	- 0.6	- 0.1
輸 出 品	94.2	- 0.4	- 2.2	0.9	1.1	- 1.8	- 1.1	0.7
輸 入 品	103.9	1.7	- 1.5	0.8	2.0	- 1.6	- 2.0	0.9

(注) 日本銀行調べ。

消費者物価指数の推移

(前月<期>比騰落率・%)

		ウェイト	55 年		55 年			最近月の 前年 同月比
			4～6月 平 均	7～9月 平 均	9 月	10 月	11 月	
東 京	総 合	100.0	2.9	1.1	1.5	－ 0.4	*－ 0.1	* 7.7
	季節商品を除く総合	91.9	4.9	1.0	0.8	0.7	* 0.2	* 8.5
	(季節商品)	(8.1)	(－ 15.1)	(1.7)	(10.5)	(－ 3.6)	(*－ 3.1)	(*－ 0.1)
	食 料	40.1	－ 1.9	1.2	2.5	－ 0.3	*－ 0.5	* 5.0
	住 居	11.1	2.3	0.8	0.2	－ 0.2	0.3	4.7
	光 熱	4.2	38.7	0.6	－ 0.1	0	－ 0.1	43.4
	被 服	12.4	4.5	－ 0.2	6.6	3.0	0.4	8.9
	雑 費	32.2	4.0	1.5	－ 0.4	0.3	* 0.2	* 7.2
全 国	総 合	100.0	3.2	1.2	1.5	0.1	…	7.8
	季節商品を除く総合	91.7	4.8	1.2	0.8	0.6	…	8.5
	(季節商品)	(8.3)	(－ 9.6)	(0.4)	(9.7)	(－ 4.4)	…	0.1
	特 殊 分 類							
	農 水 畜 産 物	16.3	－ 5.7	0.4	4.6	－ 1.2	…	2.6
	工 業 製 品	46.6	4.5	0.9	1.9	0.6	…	7.8
	うち大企業性製品	21.4	4.0	1.1	0.2	0.2	…	8.5
	中小企業性製品	25.2	4.8	0.6	3.3	1.1	…	7.3
	サ ー ビ ス	33.6	6.1	1.0	0	0.3	…	9.5

(注) 1. 総理府統計局調べ。

2. *は速報。

(消費者物価——11月<東京都区部、速報>は前月比－0.1%と微落)

11月の消費者物価(東京都区部、速報)は、前月比－0.1%の微落となった。内訳をみると、被服は冬物衣料の高値出回りから前月比＋0.4%の上昇となった一方、季節商品は豊漁による生鮮魚介の値下り(前月比－6.0%)などから同－3.1%と下落した。

前年比上昇率では、みかんの不作による果物の上昇(果物の前年比10月－0.9%→11月＋23.4%)を主因に総合では＋7.7%と前月(＋7.3%)に比べ伸びを高めた。なお季節商品を除く総合では、＋8.5%となった。

◇総合収支は赤字に転化

10月の国際収支は輸出が高水準を続けたものの、輸入が大幅反動増となったことから、貿易収支は776百万ドルの黒字(前月同1,949百万ドル)にとどまり、経常収支も73百万ドルの赤字と、前

月久方ぶりに黒字計上(953百万ドル)のあと小幅ながら再び赤字を記録した。この間、長期資本収支は外国投資家による株式利喰い売りの動きや買現先の期日売戻し集中などから6ヵ月ぶりに流出超となり、この結果、総合収支では1,080百万ドルの赤字と前月(946百万ドルの黒字)とは様変わりとなった。

(輸出——好調持続)

10月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は＋3.4%(前月＋5.1%)の増加となった。品目別(通関ベース)にみると、自動車が81年型車の価格引上げの一方船積み自粛から金額としては前月並みの水準にとどまったものの、ビデオテープレコーダー、テレビ等弱電製品が好伸を続けたほか、鉄鋼も中国、ソ連等共産圏向けの伸長などから久方ぶりに高い伸びを示した。

なお、11月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は前月減少(－4.2%)のあと増加(＋1.5%)したが、ひとところに比べ増勢は鈍化傾向にある。品目別に

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	55 年			55 年			前年同月
	1～3月	4～6月	7～9月	8 月	9 月	10 月	
経 常 収 支	△ 5,810	△ 4,533	△ 941	△ 864	953	△ 73	△ 1,086
貿 易 収 支	△ 2,593	△ 1,300	2,376	314	1,949	776	△ 407
輸 出	26,718	30,841	32,837	10,133	11,463	11,539	8,726
輸 入	29,311	32,141	30,461	9,819	9,514	10,763	9,133
貿 易 外 収 支	△ 2,724	△ 2,841	△ 3,009	△ 1,088	△ 918	△ 718	△ 583
移 転 収 支	△ 493	△ 392	△ 308	△ 90	△ 78	△ 131	△ 96
長 期 資 本 収 支	609	138	2,637	1,075	763	△ 927	△ 2,468
本 邦 資 本	△ 2,211	△ 1,603	△ 3,154	△ 1,056	1,268	△ 1,118	△ 1,336
外 国 資 本	2,820	1,741	5,791	2,131	2,031	191	△ 1,132
基 礎 的 収 支	△ 5,201 (△ 4,477)	△ 4,395 (△ 3,894)	1,696 (1,020)	211 (△ 593)	1,716 (1,198)	△ 1,000 (△ 1,015)	△ 3,554 (△ 3,630)
短 期 資 本 収 支	891	△ 205	724	260	140	267	329
誤 差 脱 漏	△ 1,282	△ 1,023	△ 273	408	△ 910	△ 347	△ 246
総 合 収 支	△ 5,592	△ 5,623	2,147	879	946	△ 1,080	△ 3,471
金 融 勘 定	△ 5,592	△ 5,623	2,147	879	946	△ 1,080	△ 3,471
外 貨 準 備 増 減	△ 1,784	4,099	1,126	255	720	968	△ 2,062
そ の 他	△ 3,808	△ 9,722	1,021	624	226	△ 2,048	△ 1,409
外 貨 準 備 高	18,543	22,642	23,768	23,048	23,768	24,736	23,273
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 23,926	△ 33,627	△ 32,006	△ 32,291	△ 32,006	△ 34,038	△ 21,165

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸出認証	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状		届 出
55年 1～3月 平均	9,338 (+ 5.8)	9,961 (+ 6.4)	△ 623	9,663 (+ 8.2)	11,188 (+ 5.8)	7,341 (+ 6.5)	10,039 (+ 4.6)	13,209 (+ 17.1)
4～6 〃	10,395 (+ 11.3)	10,662 (+ 7.0)	△ 267	10,645 (+ 10.2)	12,163 (+ 8.7)	7,223 (- 1.6)	11,009 (+ 9.7)	13,621 (+ 3.1)
7～9 〃	10,769 (+ 3.6)	10,203 (- 4.3)	566	11,018 (+ 3.5)	11,585 (- 4.8)	7,570 (+ 4.8)	11,549 (+ 4.9)	12,735 (- 6.5)
55年 7 月	10,719 (- 0.9)	11,146 (+ 0.5)	△ 427	11,026 (+ 1.1)	12,804 (+ 0.3)	7,271 (+ 3.9)	11,536 (+ 0.7)	13,448 (+ 2.2)
8 〃	10,526 (- 1.8)	9,830 (- 11.8)	696	10,844 (- 1.6)	11,052 (- 13.7)	7,495 (+ 3.1)	11,230 (- 2.7)	12,836 (- 4.6)
9 〃	11,063 (+ 5.1)	9,632 (- 2.0)	1,431	11,184 (+ 3.1)	10,900 (- 1.4)	7,943 (+ 6.0)	11,880 (+ 5.8)	11,922 (- 7.1)
10 〃	11,442 (+ 3.4)	10,681 (+ 10.9)	761	11,775 (+ 5.3)	12,324 (+ 13.1)	7,607 (- 4.2)	12,113 (+ 2.0)	13,105 (+ 9.9)

- (注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(一)率(%)。
 2. 輸出信用状接受高および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。

は、化学製品が増加した一方、繊維製品、鉄鋼、電気機械、自動車は減少した。

(輸入——大幅増加)

10月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は+10.9%と前2か月減少(8月-11.8%、9月-2.0%)のあと大幅反動増となった。品目別(通関ベース)にみると、木材、一般消費財等が引続き低調

裡に推移したものの、前2か月著減の反動から原油が増加したほか、羊毛、綿花等繊維原料は入着集中から、また穀物、砂糖等も価格の高騰から、ともに大幅増加となった。

なお、11月の輸入承認・届出額(特殊大口除外、季節調整済み)は、-12.4%と前月増加(+9.9%)のあと大幅減少となった。